



## 風邪に抗生物質は必要か？

コロナがようやく下火になってきたように思います。当初「子どもはコロナにかかりにくい」と言われていましたが、ウイルスがどんどん変異し、第7波では子どもたちが学校や保育園・幼稚園等で「もらってしまった」というご家庭もあったことでしょう。

不安な日々を過ごされた方もおられると思いますが、何か治療はなかったの？と思われた方に今回は「ウイルス感染症と抗生物質のおはなし」です。

病院に受診したときに「抗生物質」を処方されたことはありませんか？

抗生物質とは「細菌による感染症に効く薬」です。ウイルスによる感染には全く効果がありません。一般的に「風邪」のようなウイルスによる病気に抗生物質を使用しないのはこんな理由があるのです。コロナウイルスにも特効薬がなく、自宅でじっと自然治癒を待つしか無いのはこのような理由です。

小児でいいますと、RSウイルス感染症・プール熱・ノロウイルス感染症等や、今年の夏に大流行した手足口病・ヘルパンギーナも全てウイルス感染症です。症状によって食事や水分が摂取できず、遊ぶことや、おしゃべりができないなど活気がない場合や、発熱に伴ってけいれんが起きたときには入院をお勧めしています。治療としては前述の通り、抗生物質は使用しません。つらい症状が続くときには、対症療法といって、症状を和らげる薬を投与することはあります。(コロナウイルス感染症では、解熱剤や咳止め薬が多く使われました。)あとは点滴で水分補給しながら、少しずつ経口摂取をすすめます。入院しても自然に回復するのを待つのが治療と言えます。食事摂取ができ、活気があれば入院せずに自宅で経過をみていただき、「自然治癒」を待ついただくことがほとんどです。

抗生物質の乱用は非常に危険です。耐性菌といって、抗生物質が効かない菌となってしまうことがあるからです。「抗生物質は必要な病気かどうか」は病状・経過、検査の結果などから医師が判断します。ウイルス感染症から2次的な細菌感染症を引き起こすこともあり、その場合は抗生物質が使用されることもあります。

だからといって、やみくもに抗生物質を怖がることはありません。医師の処方した量、期間を守っていただくことが重要です。特に溶連菌感染症では指示された期間はしっかりと抗生物質を内服しましょう。腎障害などの後遺症の心配があるため確実に飲みきることが大切です。抗生物質でお腹が緩くなることがありますが、医師にご相談下さい。

これからまたウイルスによる感染症の流行する季節になります。手指衛生（手洗い・消毒）と換気に注意しましょう。家庭内感染で、一家でかかることもあり得ますので、子どもの風邪・胃腸炎と思わず、お家の方も注意して下さい。



\*手洗い\*

\*消毒\*

\*換気\*

基本的な感染対策を続けましょう。

長野赤十字病院 病後児保育室ゆりかごでは、  
病気や怪我の回復期にあるお子さんをお預かりしています。  
感染症の流行期などに「ゆりかごだより」として情報を  
発信してまいります。

長野赤十字病院  
病後児保育室 ゆりかご

TEL 026-226-7753



ご利用についての詳細は長野赤十字病院ホームページをご覧ください。

QRコード または「長野赤十字病院 ゆりかご」で検索